

入學檢定の所感 (三)

第一入學檢定所感

田代順之

はしがき

檢定日の前日檢定委員を命ぜられ、檢定問題を作つて明朝提出せよとの命を受けたのは其の日の夕方であつた。何分早急な事なので少からず困つた。其の晩は色々心構して檢定當日は早朝登校し問題の材料を詮索した。次に掲げる問題は其の一つであつて、私は此の問題によつて直接幼児を檢定したのであるから、讀者諸氏の参考までに問題並びに其の結果に對する所感の一二を述べて見たいと思ふ。

試問材料及試問概要

材料は八ツ手の葉三枚で

内二枚は濃綠色、略々同大であるが、其の一枚は分裂小葉が七枚、他の一枚は小葉が九枚で顯著な相異がある。

残りの一枚は目立つて大きく、淡黄色の部分を斑に持ち前二葉よりは著しく異つてゐるが、小葉は九葉で、輪廓は前二枚の中の後者に類似してゐる。

以上の材料を机上に並べて幼児に観察させ、次のやうな試問を行つて見た。

1 (指しながら)この葉はこの葉をよよく見て下さい。さの葉さの葉が一ばんよく似てゐますか……大抵は同色、同大の二葉を指す。

2 この葉(小葉九枚で濃綠色のもの)さこの葉(大きな葉はみんなさころが似てゐませんか(或は異つてゐますか))。

3 この二枚の葉(濃綠色の二葉)は似てゐますがよく見るに少し異つたさころもあるでせう? みんなさころが異ふでせうね。

4 この葉さこの葉(小葉九枚の二葉は色も異ふし大いさも異ひますが、少し似たさころもあるでせう、みんなさころが似てゐますか。

5 この葉さこの葉(濃綠色の二葉)さくらべたらさちらの方が指のやうな小さな葉を澤山持つてゐるでせうか……その方が(小葉九枚のもの)幾枚澤山ありますか。

試問經過

第一問は大體に於て無難であつたが、それでも一割位のものが、最も異つた二枚を持つてゐる。こんな幼児は後の問を出して見ても殆ど問題にならない不成績

第二問では大いささ色の相異を完全に指摘した子供は百六十餘人中僅々十人位しかなかつた。私の豫定としては其の一を答へればよいのであつたが其の大部分は色のみの指摘に終つてゐた。

第三問では多くの者は葉柄に最も近い二小葉の開きの角度の相異を指してゐた(一は九十度、一は内縁が殆ど平行してゐる)が優秀の子供は小葉の大小、小葉數の多少までも一度に擧げてゐる。

第四問は一番困難のやうに見受けた。小葉の數や輪廓の類似してゐるこゝの其の一つを擧げ得たものは約一割位のものである。併し葉柄の葉身に著いてゐる工合や葉柄に最も近い二小葉の開き工合の類似點等を擧げた子供は相當に多い。

第五問の中の前者は全部のものが正しく答へた、併し後者の問になるこゝ考へ込んだ様子で他所に視線を向けながら指折り數へて所要の答を言ふ。併し小葉九枚のものを七枚まで數へ、残る二枚を更に數へて答へた子供は唯二人きりしかかなかつたのには驚いた。

所感の二二

大體かうしたやうな結果から總合するこゝ、一般に幼児の教育上、實物に即した辨別力の陶冶さいつたやうな方面が閑却されてゐはしまいか。

殊に物を數へるこゝいふ場合、實物が目前に嚴存してゐるにも不拘、他所を向いて指で數へるこゝいふやうな態度は望ましくない。之は指導者が早く數を抽象化することに急ぐ結果である。かうした結果は却つて數觀念の確立上障礙になる事を忘れないやうにしたものである。

尙大小の觀念の乏しいのには驚かされた。私がこちらはこんなに大きいしこちらはこんなに小さいではありませんかご指で輪を作つて見せるこゝ、さの子供もそんなこゝならよく知つていたこゝいふ面相を浮べる、是等も平生實物に對する明確な識別を意識的に行はせる指導が足りないからのやうに思はれる。要はもう少し幼児の教育上實物に即した觀察、識別の態度養成に注意を必要とするこゝいふ警告にはなりはしまいかと思ふ。